

講演

国連機関のセス本部長「アジアの世紀、日本が手本を」「持続可能な開発目標」でセッション 中区 / 広島

毎日新聞 2016年2月13日 地方版



講演するユニタールのニキル・セス本部長
=広島市中区で

国連が昨年9月に採択した活動方針「持続可能な開発目標」をテーマにした公開セッションが4日、中区の原爆資料館東館であり、国連訓練調査研究所（ユニタール、本部・スイス）のニキル・セス本部長が講演した。セス本部長は「これからの未来はアジアの世紀となる。アジアのリーダーとして、日本が経済や環境、軍縮などさまざまな分野で手本を示してほしい」と述べ、日本に積極的な関わりを求めた。

「持続可能な開発目標」は、2016年から30年までの国際社会の新たな開発目標で、貧困や飢餓の撲滅、格差の解消など17分野を盛り込んだ。15年末までの「国連ミレニアム開発目標」を引き継ぐもので、途上国だけでなく先進国も対象としていることなどが特徴。インド出身のセス本部長は国連に20年以上勤務し、目標の作成に尽力した。

セス本部長は目標について「単なるリストではなく、各分野が相互に関連している。政府だけでなく、市民一人一人が目標の実現に関与してほしい」と説明。広島は「原爆から復興し、素晴らしい街をつくった」と評価し、「平和や防災、街づくりなどの取り組みは各国の模範となる。もっと復興の過程を世界に示してほしい」と求めた。【石川裕士】

Mainichi Shimbun, March 10, 2016

毎日新
Copyr

Public session about “sustainable development and its objective” was held in Hiroshima-city. Mr. Nikhil Seth, UN Assistant Secretary-General, Executive Director of UNITAR delivered the speech. He remarked the initiative of Asia, Japanese leadership in this region. The “sustainable development and its objective” is the 15-year period objective of international community. He mentioned that each field is interacted with each other in this objective and expected Hiroshima to be a role model of the post-conflict and natural disaster recovery.